

1. 評価結果概要表

作成日

平成20年1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1270101155
法人名	(株) 千葉薬品
事業所名	グループホーム ヤックス都の杜
所在地	〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1283番地 (電話) 043-232-6204

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年2月10日

【情報提供票より】 (平成19年12月31日)

(1) 組織概要

開設年月日	2003/8/1		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	20 人	常勤14人, 非常勤4人, 常勤換算14.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000～50,000 円	その他の経費(月額)	規定により
敷金	無し		
保証金の有無 (入居一時金含む)	30万円	有りの場合 償却の有無	有 (30ヶ月)
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり		1,700 円

(4) 利用者の概要(平成19年12月31日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の理念は「私たち、グループホームヤックス都の杜の職員は、あたく家庭的な雰囲気の中で自由に、自分らしく、安心して暮せる生活を支援します。」である。月に1度「近況報告書」にホームの様子を撮った写真や手書きの便りを一緒にして近況を家族に知らせている。又、ホーム内に多くの行事の写真を掲げたり、誕生日の一覧表が手書きで作ってあるなど、とてもアットホームな雰囲気が伝わってくる。

建物が古く、浴室・手洗いなど若干の不都合が見られるが、全職員はサービスでは満足してもらえぬ行き届いたケアに努めている。家族調査の結果からは、管理者をはじめ真に利用者の立場にたった誠実な対応をしていることが分り、高く評価できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は①職員の補充とフォローアップ研修等への参加、②地域の理解や交流などであるが、②については相当の努力がみられるが、①については基準の職員数は満たされるものの、社会情勢からも十分な補充は難しく人手不足は否めない。このため研修会への参加は充分とは言いがたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員はこの評価に対する意義を十分理解をしている。自己評価を行うにあたり、更に昨年の改善点の再チェックを行うなど前向きな取組みが見られる。近くの学校や老人会への働きかけなど地域とのふれあい強化に意欲的である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを生かした取組み(関連項目:外部4.5.6)
	運営推進会議は家族代表、民生委員、ホーム代表などで構成され、年2～3回開催している。会議の内容は、ホームの活動、利用者の状況、職員の入退職状況、外部評価の報告など多岐に亘る。討議された改善点や問題点、職員には伝わりにくい利用者・家族の声や情報などを的確に挙げてもらい、サービス向上に結び付けている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、ホームの近況報告書と併せ、職員の手書きによるコメントで利用者一人ひとりの状況をお伝えしたり、面会時及び随時の電話での連絡などきめ細かいコンタクトをしている。利用者家族の代表2名に苦情相談窓口を引き受けていただくことや、千葉市には毎月「介護相談員」の訪問をしてもらい意見を聞いてもらうなど、透明性の確保に努めている。

要介護3	5名	要介護4	3名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 85.6 歳	最低 74 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団榎会	千城台クリニック	旭ヶ丘第一歯科クリニック
---------	----------	----------	--------------

重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	<p>開設当初から自治会に加入し、地域の行事や清掃、廃品回収などに積極的に参加している。又、ホームの行事に参加してもらい、施設便りの「都の杜通信」やパンフレットを配布するなどし、双方向の深い理解と連携に努めている。地元の諏訪神社大祭時には、主催者の配慮によりホーム庭内に御神輿の乗り入れがされるなど付き合いは深い。今後、近隣の幼稚園や小学校、中学校などと交渉され、子どもたちとの世代間を超えたふれあいや社会見学の場の提供などの連携を探ることを勧めたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の理念があり、各ユニットの見易いところに掲示してある。管理者と職員が理解し、その実践に取り組むことは勿論、利用者・家族には運営推進会議や「都の杜通信」などで理解を得るようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時や様々な会合および会議時を利用し、理念を繰り返し確認し、共有するようにしている。職員は常に理念を意識し、その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から自治会に加入、地域の行事や清掃、廃品回収などに積極的に参加している。又、ホームの行事に参加してもらうことや、「都の杜通信」・パンフレットなどを配布し、理解を深めてもらえるよう努めている。地元の諏訪神社大祭時には配慮により、庭内に御神輿の乗り入れがあり付き合いは深い。	○	近くの幼稚園や小学校・中学校にも声かけし尚一層の地域との関わり、世代間を超えた関わりにも広がるような取り組みも期待したい。
tyuuga					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、職員一同、評価の意義を十分理解し、改善事項に関しては積極的に取り組みをしている。毎年外部評価の結果は所内に掲示され利用者・家族はいつでも閲覧が可能である。又、民生委員や行政などに情報の開示と報告を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、民生委員、ホーム代表などで構成され、年に2～3回開催している。会議の内容は、ホームの活動、利用者の状況、職員の入退職状況、外部評価の報告など多岐に亘る。検討された事項は直ちにサービス向上に活かしている。		移動
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席の依頼をしているが未だ参加はない。しかし、市担当者とは随時連絡を取り合う他、報告を行っている。	○	改正介護保険法により、グループホームにおける市町村との関係が必要である。今迄以上に運営推進会議への出席依頼や、情報交換をおこなうなど連携を深めたい。

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時及び必要に応じて電話で連絡を取り合っている。毎月、近況報告書と併せ、入所者ごとに手書きによるコメントで近況をお知らせしている。こまめに連絡がなされており、利用者・家族アンケートにも「ホームの様子が良くわかる」「ホームに行きやすい」と評価の高い声がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や地域の声、苦情相談窓口やアンケートでの利用者・家族の声等に真摯に耳を傾けている。ホームの活動内容については情報の公開や、千葉市に「介護相談員」の訪問を依頼しており意見を聞いてもらうなど、透明性の確保に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職を最小限に抑えるべく待遇での配慮(社会保険加入・休暇・資格取得時の補助等)をしている。日常大まかな担当決めを行い、ユニット相互に職員の補完が出来るようにして、普段から利用者との馴染みの関係をつくりダメージを最小限にする仕組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人も管理者も働きながらの内外の研修機会に積極的に参加するよう職員に勧めている。研修においては出勤扱いで費用は法人負担、資格取得には一部補助がある。	○	法人は職員の研修参加や資格取得に理解はあるが、職員不足で参加が出来ないことが多々ある。運営者の事業所業務への更なる理解が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会（施設84箇所中約40箇所構成）に加入し、世話人をするなど、ネットワークづくりに取組んでいる。法人の理解を得て積極的に交流をし、情報の収集・サービスの向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず来所してもらい雰囲気に馴染んでもらいながら事前面接を行っている。利用者・家族と十分な話し合いをもち、状態や性格の把握など入居に向けて万全の体制で臨んでいる。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに暮す仲間として、出来ること・出来そうなことを大切に捉え、配膳・片付け・食器洗いやアクセサリー作りなど一緒に行い本人のやる気の引き出しを行うなど、お互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴・疾病歴等を踏まえ、思いや意向の把握に努め、入所前からの継続したその人らしい暮らしに繋がるよう、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間チームの毎日の申送りや運営会議等で、利用者一人ひとりがホームでより良く暮していくためにはどのようなケアの提供がよいかを話し合いを行っている他、個々の状態や課題、面会時や随時の家族の意向の確認を行い、それらを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しの他に、介護度の変更・歩行や認知症の状態に変化が見られるなどの時は随時見直しを行い、常に利用者の状態に応じた新たな介護計画の作成をしている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所の所属する法人は、薬品販売や福祉用具貸与・販売など広く事業を展開している。利用者や家族の要望や状態に応じて医薬品や福祉用具の情報提供など柔軟に対応し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に、必要に応じて情報提供や家族に代わって職員が付添うなど、継続して受診出来るように支援している。他に協力医療機関による月2回の往診や歯科クリニック受診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より家族とは話し合いの場を設けている。段階・状況に応じて随時、早めの話し合いを行い、家族の意向や思いを受け止め、医師、家族、職員で方針の共有に努めている。今までにターミナルケアでお一人を見送っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格の尊重を第一に踏まえ、自尊心や羞恥心、個人情報等プライバシーに配慮したケアを提供している。書類は一定の場所に管理し持ち出し禁止の他、「都の杜」掲載の場合には本人や家族から承諾を得るなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	習字やアクセサリ作りなど一人ひとりのペースに合わせ、希望や気持ちに副い意欲が湧いてくるような支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえやおかずの盛り付け、お茶を入れたり、配膳・片付け・食器洗いなど、利用者それぞれが出来ることを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日がある。利用者の気分や健康状態・ペースやタイミングに合わせ、くつろいで気持ちよく入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を与し、できる力、得意分野を活かし楽しんで取り組んでもらえるよう支援している。例えば87歳の方の率先した食器洗い・90歳の方はビーズのアクセサリー作りなどを通して、意欲の引き出しを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴を兼ねた散歩は可能な限り毎日行うようにしている。近くのコンビニやスーパーなどへの買い物その他、非日常では四季折々の花見や、苺狩り・民謡ショーなどの外出があり利用者も楽しみにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関には鍵はかけておらず、庭への出入り、各ユニットの行き来は自由である。周辺道路は交通量が多いため、家族の希望もあり安全に配慮して門扉のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っており、時には消防署の立会いがある。非常時の協力依頼を近隣に働きかけている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取管理表を作成しており、栄養バランスに配慮した食事量・水分摂取量を記録している。利用者毎の状態や習慣に応じた、食べる楽しみに配慮した食態の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングは居心地の良い雰囲気になるよう配慮し、季節の花や飾り付け・行事の写真などを飾っている。又、ホーム全体は掃除が行き届いており共有空間は利用者にとって落ち着ける空間であるよう、不快な音や臭いの除去・遮光などに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた箆笥や本棚或いは仏壇など、思い思いの家具や生活用品を持ち込め、本人が居心地よく過ごせるような配慮をしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。